令和6年度　第23回
「女と男の一行詩」

応募者数　282名
応募総数　536点

選表入発

【最優秀賞】

考え直そう
自分が思う　当たり前

自分が思っていた常識が当たり前じゃなかった時に考え直したことがきっかけでした。ちゃんと考えてから行動しようと思いました。

及川　颯太さん（高校生）

【優秀賞】

家事・育児
ふたりでやるから
夫婦なの

家事や育児で忙しい時こそ二人で手を取り合い協力していくことが夫婦の在り方だと考えました。

蛯原　舞桜さん（高校生）

【優秀賞】

嫌じゃないの？
男子トイレは
個室じゃないこと

学校生活でふと思ったことを書きました。小さな疑問をきっかけに得られる新たな気付きを、今後も大切にしていきたいです。貴重な機会をありがとうございました。

安孫子　佑実さん（中学生）

入選

家事分担　負担も愛も
２人分

何をする時も２人ですると負担も減るし、自然と会話も増えます。そして・・・愛も増えます。

山加　美咲さん（一般）

入選

「やろうか？」より
「やるよ」と言ってほしい

男女共同参画が浸透する世の中ですが、簡単にはなくならない男女の中で生まれてしまっている差別について、不満を抱いていたのでこの思いを詩で表しました。

川畑　心結さん（高校生）

入選

男だから・・・。
女のくせに・・・。
知らず知らずとらわれてる
自分、いなくなれ。

自分の意識のなかでなくなってほしいと思っている事、しかしついつい言葉にしている自分もいます。そんな事から多様性を考えるとさらに気をつけていかなければと思います。

清水　智恵さん（一般）

【講評】

今回の女と男の一行詩にも沢山の方から応募をいただきました。特に今年は中学生からも応募がありました。斬新な視点からの作品で私たち選考委員も新たな気づきがありました。市民の皆様からも好評で、優秀賞に選出されています。

さて、「一行詩」という制約の中での表現ですから、作品によっては色々な解釈が生まれることもあります。今年の選考委員会でも、委員それぞれに色々な読み方があるものだと感じました。個人の経験や男女共同参画に対する考えが作品の解釈に反映され、１０人いれば１０通りの受け止め方がありうるというのも、一行詩の魅力ではないでしょうか。

そんな女と男の一行詩も今年で 23 回目を迎えました。第 1 回から今回までの応募総数は 14447 作品、入賞は 164 作品にのぼります（これまでの入賞作品は帯広市のホームページからご覧いただけます）。多くの市民に愛されてきたことを、選考に携わる者としてとても嬉しく思います。過去からの入賞作品を読んでいると、その時々の世相を反映しながらも根底には一貫して男女共同参画への確かな思いが流れているのを感じます。そんな思いを乗せた一行詩たち、私たち市民のかけがえのない宝物としていつまでも輝き続けてくれることでしょう。

「女と男の一行詩」選考委員長
阪口　剛

投票上位にランクインした作品

●一度きり　なりたいように　生きなさい
●多様性　認める　より光　知る気持ち
●人生は　自分で決めろ　一度だけ
●「ら　いこう　生きるだけで　価値がある
●可能性　広げるための　多様性
●君　しく　君だけが持つ　宝物
●人　さり　合うほどから　多様性
●思　色　認め　第一歩
●ピン　事　小さな　いじゃない
●女　ク　俺が着たって　当り前ではない
●偏　家　男が働く　ている
●育　で　人の自由を奪？　ではなく　その子の親として
●支　見　仕事は男と　しっかり役割分担しよう
●ど　見　ナーとして
●な　え　パートに
●普　ち　平等に
●通　ら　思う姿に　なればいい
●　た　あなたが何を　知ってるの？
●　じ　ない
●　や